

社会教育施設の自己紹介

【施設名】 滋賀県立近代美術館

【施設概要】

当館は、琵琶湖と比良・比叡の山並みを望む大津市南部の瀬田丘陵、文化ゾーンの一部に、1984(昭和59)年8月26日に開館しました。周囲は美しい日本庭園に囲まれ、県立図書館、埋蔵文化財センターなどの諸施設に隣接するなど、恵まれた環境をもつ郊外型の美術館です。建物は鉄骨造2階建ですが、外から見るとまるで平屋建ての日本家屋のように見え、周囲の緑の中に違和感無く溶け込んでいます。展示室はすべて1階に位置し、面倒な階段の昇り降りをすることなく、お年寄りやお身体の不自由な方にも利用しやすい構造になっています。

作品の収集は、(1) 日本美術院を中心とした近代日本画、(2) 郷土滋賀県ゆかりの美術、(3) 戦後のアメリカと日本を中心とした現代美術、という3つの収集方針に基づいて行っています。近代の日本画では滋賀県出身の小倉遊亀画伯の作品50余点をはじめ、安田靉彦「飛鳥の春の額田王」、速水御舟「洛北修学院村」といった院展の名作を数多く収蔵し、郷土美術では人間国宝作家である紬織りの志村ふくみや、陶芸の清水卯一の作品コレクションが際立っています。アメリカ現代美術の収集も、1950年代の抽象表現主義から80年代のシミュレーショニズムまでバランスよく作品が揃っており、西日本随一のコレクションであると自負しています。



滋賀県立近代美術館のホームページ → <http://www.shiga-kinbi.jp/>

【特色ある取り組み等】

■挑戦的な企画展示

当館は年間5〜7本の企画展示を開催しています。作品収集方針に沿ったものを主軸に、来館者のニーズに合わせたバラエティに富んだラインナップを心がけていますが、自主企画展の場合は滋賀県だけでなく京阪神や中京圏の美術ファンも射程に入れて、先鋭的な内容のものを数多く実施しています。

例えば、2006年2月11日(土)から4月2日(水)にかけて実施した『センシビリア-館蔵品によるある試み-』展は、収蔵品を企画展示室に並べたいいわゆる「拡大常設展」でしたが、学芸員の代わりにアーティスト(関西の現代芸術ユニット“softpad”)に展示構成や照明等の演出を委ねることにより、今までに無い斬新な空間作りに成功しました。また2007年6月16日(土)から7月

29日(日)にかけて実施した『ダイアログ コレクション活用術 vol.2』でも、現役の4名の現代画家(伊庭靖子、児玉靖枝、佐川晃司、渡辺信明)とのコラボレーションで展示を行うことにより、館蔵品の新たな魅力を引き出すべくチャレンジいたしました。

その一方で、初心者や子どもたちを対象とした美術入門編的な展示もコンスタントに実施しています。企画展示のかたちで数年おきに実施していた『冒険美術』展に代わり、2001年からは毎年夏休み期間中の常設展示を『夏休み子ども美術館』と銘打って、クイズ形式のキャプション設置やワークシートの配布、遊べるコーナーの設営などにより、作品の見方が楽しく鑑賞できるような内容で実施しています。

■充実した教育プログラム

当館は開館当初からいち早く教育普及事業に取り組み、様々な教育プログラムを実施しています。

◇ 各種講座と解説サービス

毎年春と秋に、学芸員が様々なテーマのもと美術の裏側や作品の背景について連続で講義する「美術館講座」は、開館当初から実施している定番の催しです。また毎日午後1時から企画展示の、午後2時から常設展示の解説サービスを、美術館サポーター(解説ボランティア)が欠かさず実施しており好評を博しています。なお美術館サポーターは2001年度から実施された制度で、現在60名余りのメンバーが活躍中です。



◇ 各種ワークショップ

毎月第4土曜日に実施している家族向けワークショップ「たいけんびじゅつかん」や、学生ボランティアの協力のもとに毎年夏休みに実施している小学生向けの大掛かりなワークショップ「びっくりミュージアム」のほか、展覧会に関連した大人向けのものなどを多数実施しています。内容も作品制作から、ミュージアム・オリエンテーリング、鑑賞ワークショップなど多岐に渡っています。



◇ 学校貸出用鑑賞教材「アートゲーム・ボックス」

県内の小中高等学校からの要請により、職員が教室に出掛けて鑑賞教育の授業を行うこともあります。ただし要請のすべてには応じることができないため、当館では教室において教員自身が実施できる鑑賞プログラムとしての『アートゲーム』(80年代にアメリカで開発された、遊びながら作品の見方を学習できる鑑賞教材)の普及啓発に努めており、そのノウ



ハウをパッケージ化した「アートゲーム・ボックス」の貸出しを無償で行っています。

◇ 美術館サポーターによるアウトリーチ活動

上記の『アートゲーム』は教員だけでなく、美術に関する専門知識を持たない美術館サポーターにとっても大きな武器となります。そこで当館のサポーターは、学校や公民館、地域のイベントなどの要請により、現地に出向いてアートゲームの実践を行うアウトリーチ活動にも取り組んでいます。美術館職員の手が回り切らない部分をボランティアの手で補うことにより、地域や学校との連携もスムーズに進めてゆけると信じています。その一方で、2007年8月には美術館の主催による学校教員対象の研修交流会を開催するなど、サポーターのみに頼らない、館と学校現場の人的なパイプ作りにも当館は意欲を燃やしています。

【来館者数の推移】

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
常設展示	42,600 人	47,314 人	31,041 人	44,570 人
企画展示	48,067 人	57,980 人	37,206 人	54,764 人
計 (※)	58,477 人	63,922 人	44,471 人	61,487 人

【今後の展覧会予定】

『天体と宇宙の美学』 Beauty of Heavenly Bodies and the Universe

10月6日(土) - 11月18日(日)

地球上の生命の源である太陽。満天の夜空に輝く星と月。広大無辺の空間に漂う銀河系。人間の魂を魅了して止まない宇宙の謎と神秘は、美術の中にどのように表されてきたのでしょうか。天体や宇宙をテーマにした様々な美術作品の中に、芸術家たちが思い描いた宇宙像や夢を探ります。

※ 写真：ジョゼフ・コーネル「シャボン玉セット (月の虹) 宇宙のオブジェ」 滋賀県立近代美術館蔵



『ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展』

William Merrell Vories

2008年 2月9日(土) - 3月30日(日)

アメリカに生まれ、近江八幡に活動の拠点を置いた建築家ヴォーリズ(1880-1964)。建築をとおして理想の生活を築こうとした彼の活動と思想の系譜を紹介します。

※ 写真：旧水口図書館 (甲賀市・登録有形文化財)

